



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'96 12月号

多面打大会開かれる



木谷實特別展記念

11月3日文化の日は紅谷町パールロード商店街を舞台に200名の「特別展記念多面打大会」が実施されました。当日は、心配された前日からの雨も上がり、曇天ではありましたが、予定には無かった武宮正樹名人の参加も得られ、会場のパールロードは終日囲碁一色に染まりました。200名の多面打ちは、現在日本記録でもあり、パールロード商店街一杯に伸びた対局席を取り囲む人々の波は、二重三重にもなり、多くの人が囲碁を満喫した一日になりました。

「十九路に道を求める棋士・木谷實」展の開催を終えて

博物館では、秋の特別展に「木谷實を抜きに戦前・戦後の碁界を語ることはできない」といわれた人物に焦点を合わせ、10月1日から11月29日までの約2カ月間「十九路に道を求める棋士・木谷實」展を実施いたしました。この間、特別展示を見に来てくださった方々は、およそ12,000人余、前年同期の入館者を2,000人余りも上回るものでした。

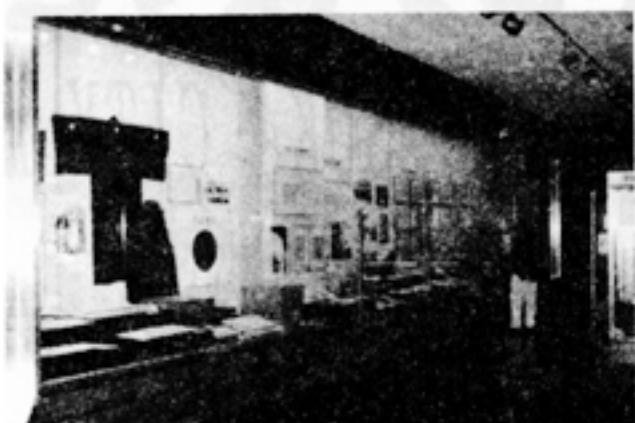
プロ棋士木谷實九段が惜しまれて亡くなつてから20年余りの月日が経ちます。木谷實九段は、昭和12年市内に移り住んでから、氏が亡くなる昭和50年までのおよそ40年間、自宅に囲碁道場を開き、多くのプロ棋士を育てます。こうした事実を知る人々は、現在、次第に少なくなる傾向にありました。したがって、是非、特別展を契機に木谷實の囲碁にかけた情熱を知っていただきたく、碁界の発展に尽くした人物の一人として囲碁文化を含め紹介しました。

ところで、今回の特別展は、特別展に関連する記念行事を多くの木谷門下プロ棋士のご協力を得て実施することができました。9月7日の「木谷道場を語る—平塚木谷道場の日々」と題する講演会では、定員700名の中央公民館に囲碁愛好者だけでなく全く囲碁を知らない人たちも詰めかけてほぼ一杯になり、木谷門下生の内弟子時代の話に聞き入りました。

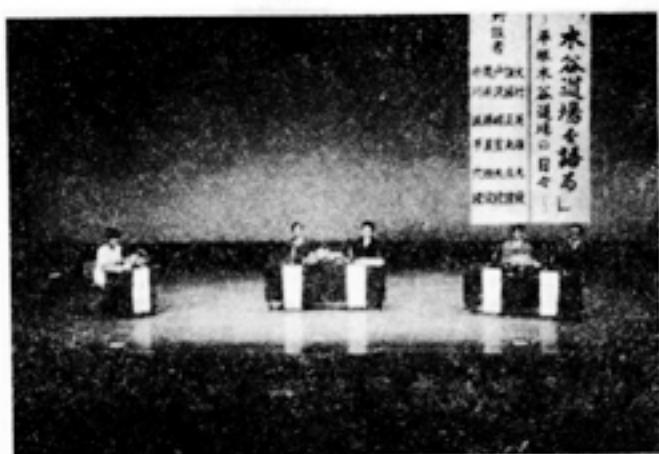
10月10日の「木谷實特別展公開対局会」では、同じく中央公民館を会場に、二部構成で行われ、第一部は木谷實の「思い出の名局・名場面」を石田芳夫九段の解説、第二部は張栩四段対小林泉美初段の対局が小林光一九段の解説で実施されました。

11月3日の「特別展記念多面打大会」は、表紙でお伝えしたようにパールロードは多くの囲碁ファンで溢れました。

この他、10月と11月の毎日曜日は、木谷門下棋士により博物館で「一日指導碁教室」が実施され、遠く神戸から指導を受けに博物館を訪れた人がいたほどでした。さらに10月13・20・27日の「囲碁入門教室」にも30名を超える市民の方々が参加され、この2カ月間、博物館をはじめ、平塚市は「囲碁の町」になったといって言い過ぎではない様相を呈しました。



▲木谷實展会場



▲座談会（9月7日）



▲公開対局会（10月10日）

身近な野鳥

冬は野鳥の観察にもっとも適した季節です。それは、四季を通して見られる留鳥だけでなく、北国から渡ってくる冬鳥も加わって、数と種類が1年中でいちばん多くなるからです。この季節に身近な公園や庭で見られる代表的な鳥を紹介してみましょう。

・キジバト

山鳩とも呼ばれるハトで、翼の羽が明るい褐色に縁どられていて鱗状に見えること、首筋に青いもようがあることが特徴です。庭木や街路樹にも巣を作ることが多く、葉を落とした落葉樹では古巣がよく見つかります。キジバトは他の鳥と違って、冬にも巣作りをすることがあります。雪の中で卵を抱いていることもあります。

・ヒヨドリ

木の実が大好きな鳥で、街路樹のクロガネモチ、庭木のセンリョウ・マンリョウなどの赤い実をものすごい食欲で食べ尽くします。全体に灰色の地味な鳥ですが、よく見ると顔には茶色い模様、胸には斑点があり、シックな装いをしています。コブシなどの薔薇を食べてしまったり、畠でキャベツなどをつい込んで、嫌われることがあります。



庭の餌台に来たヒヨドリ(高野凱夫氏撮影)

・ジョウビタキ

代表的な冬鳥の一つで、春から夏はシベリアで過ごし、10月終わりに日本に渡ってきます。昨年の冬は数が非常に少なかったのですが、今年はあちこちに姿を見せていました。鮮やかな色の雄も、やや地味な雌も翼にトレードマークの白い斑紋を持っています。冬の間、雄も雌もそれぞれが繩張りを持って過ごすので、どこでも1羽だけで見られます。

・ムクドリ

冬に大きな群れを作る鳥といえば、この鳥があげられます。昼間は、数十羽くらいの群れで餌を探していますが、夜は竹藪などをねぐらにして、時には数千羽にのぼる大群で過ごすのです。夕方ねぐらに向かう群れは、まるで黒雲のようです。よく川岸で水浴びをしていますが、その時も大勢が一緒に水に入り、豪快に水しぶきをあげています。

・アオジ

気をつけていないと見過ごしてしまう冬鳥です。おなかの黄色が鮮やかな鳥ですが、いつも藪の中を動き回っているので、なかなか見る機会がありません。ジッという声が、この鳥の目印です。

・ヒレンジャク

野鳥が好きな人たちが出現を待ちわびる冬鳥に、この鳥があります。小太りの体、ほんのり赤みのある羽色、斜めに立った冠羽、赤い尾羽の先など、なんとなくひょうきんでたちが、その人気の秘密でしょう。平塚では、3月頃毎年のように姿を見せます。ヤドリギが一番の好物なので、この鳥を見たければ、よく実のなったヤドリギのある場所を探しておくとよいでしょう。

博物館カレンダー

12月の行事予定		
1 日	民俗探訪会「八王子道を歩くIV」 (厚木市厚木)	
4 水	地質調査会(館内)	
8 日	相模川の生き立ちを探る会 「谷太郎川を歩く」(清川村谷太郎川)	
12 木	石仏を調べる会	
13 金	天体観察会「ふたご座流星群の観察」 (函南月光天文台)	
14 土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 地質調査会 平塚の空襲と戦災を記録する会 古文書講読会 自然観察ゼミナール「鳥のねぐら入門」	
15 日	○体験学習「お飾りを作ろう」 古代遺跡を探す会	
20 金	○星を見る会「冬の星座を見よう」	
21 土	平塚の空襲と戦災を記録する会	
22 日	○体験学習「家紋凧作り」 地質調査会	
26 木	石仏を調べる会	
28(土)~1/4(土) 年末年始休館		
1月の行事予定		
5 日	民俗探訪会「八王子道を歩く」(厚木市依知)	
8 水	地質調査会	
9 木	石仏を調べる会	
11 土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会	
12 日	地質調査会 ○自然観察会「カモの観察」(酒匂川)	
18 土	地質調査会(館内) 平塚の空襲と戦災を記録する会	
19 日	古代遺跡を探す会	
23 木	石仏を調べる会	
25 土	古文書講読会	
26 日	相模川の生き立ちを探る会(鐘ヶ岳)	
31 金	月末休館日	
○は参加自由 ○は申込制 他は会員制		

●寄贈品コーナー

「身近な野鳥」: 12月1日(日) ~ 12月26日(木)
「お正月の遊び」: 1月5日(日) ~ 1月30日(木)

●プラネタリウム

「ヘルボップ彗星がやってくる」

・期間: 11月24日(日) ~ 1月5日(日)

「日食と月食」

・期間: 1月11日(土) ~ 3月9日(日)

・投影日: 土曜日(冬休み中は、水・木曜日も)

・時間: ①11:00 ②14:00

・観覧料: 100円

参加者募集

●体験学習「お飾りを作ろう」

自分で作ったお飾りで正月の歳神様を迎えましょう
一文飾り、輪飾り、玄関飾りなどを作ります。

期日: 12月15日(日)

時間: 10:00 ~ 15:00

場所: 博物館中庭

用意する物: ハサミ、敷物など

〆切: 12月7日(土)

●体験学習「家紋凧作り」

横内家紋凧保存会の方々の指導で家紋を入れた角凧作りを体験します。

期日: 12月22日(日)

時間: 10:00 ~ 15:00

場所: 博物館科学教室

〆切: 12月10日(火)

●自然観察会「カモの観察」

川に群れるカモやサギなどの水鳥を観察します。

期日: 1月12日(日)

時間: 9:30 ~ 15:00

場所: 酒匂川下流

〆切: 12月末日

*申込: 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「〇〇〇係」へ

●漂着物を拾う会

海岸に打ち上げられた動植物や人工物を拾い調べます

期日: 12月14日(土)

時間: 9:30 ~ 11:00

場所: 平塚海岸(花水川橋平塚側記念碑前集合)

参加: 自由

●星を見る会「冬の星座を見よう」

期日: 12月20日(金)

時間: 19:00 ~ 20:30

場所: 博物館屋上(科学教室集合)

参加: 自由

あなたと博物館 21巻9号 遷238号 03000 発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949